

## 広島 巡礼 (2025年6月1日 15:00~17:30)

参加者は3名でした。

- ・吉川 徹忍様 (浄土真宗僧侶 広島県在住)
- ・川西 敏雄様 (医師・兵庫県保険医協会 参与 兵庫県在住)
- ・森 俊英 (浄土宗僧侶 大阪府在住)

### 巡礼の行程

最初に平和公園内の追悼碑をめぐり、各所で祈りました。

続いて、平和大通りを歩き、建物疎開作業中の動員学徒を想い、祈りました。

その後、16:30~17:30は広島県被団協を訪ね、田中聰司様（日本被団協代表理事）から被爆証言と被爆80年の8月を迎えるにあたり、活動の展望を拝聴しました。

田中様が日本被団協の活動の歴史、そして、核保有国にむけて、これから被爆者をはじめ市民活動がすべき具体的な方途をお話くださり、大きな学びを得ました。



左から吉川様、川西様 (森が撮影)

碑中央の少女が持つ箱の公式については次頁を参照

## 広島市高等女学校原爆慰靈碑

The Memorial M  
Hiros

1945(昭和20)年8月6日、現在地(旧材木町付近)で建物警備作業中の1・2年生(当時12・13歳)541人、被爆致死した人の全員が亡くなり、他の勤員先を含め676人が被爆死しました。市内の学校では、最も多くの犠牲者を出しています。

この碑は1948(昭和23)年、広島市女原爆遺族会が母校校庭に建立し、13回忌に当たる1957(昭和32)年現在地に移されました。碑中央の少女が持つ箱には、原爆の原理になった相対性理論の原子力エネルギー公式  $E=mc^2$  が刻まれています。連合軍の占領下、「原爆」という文字が使用できなかった当時の事情を表しています。

広島市高等女学校は1948(昭和23)年、学制改革で27年の校史を閉じ、現在は広島市立舟入高等学校となっています。

On August 6th twelve or thirteen houses to their heads, at this spot (Zain weapon. The working in other of all the schools.

This monument was moved to the site of the Atomic Bomb. The formula of the principle by the girls was built instead of appealing for Hiroshima reform in Hiroshima.

それぞれの追悼碑が建立された当時の社会事情や、爆心地が現在の平和公園、平和大通りとなってきた経緯、人々の苦悩を、吉川様から詳しく説明をいただきました。

吉川様は、小学校教諭として長年にわたり、平和公園・平和大通りの案内を、さらには遺骨・遺品の収集、平和活動に取り組んでこられた経験をお持ちです。

説明をうけながら巡礼をした川西様、森は「今までに複数回、ここを歩いたが、今回のような深い学びは初めて」という感想を共有しました。

(次頁もご参考ください)



「太き骨は 先生ならむ そのそばに 小さきあたまの骨 あつまれり」

この碑文、そして碑文の上部の像についても、吉川様が詳説してくださいました。  
被爆 80 年の今夏、このようにヒロシマを詳しく、ゆっくり学び、追悼をする企画も考えてみ  
たく思っています。 以上、報告と感想です。 森 俊英 記